放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和　６年　２月　１４　日　　事業所名　ローゼルこどもDayさぽーと

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7			活動に必要なスペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	7			児童発達支援管理責任者１名、児童指導員２名以上配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	7				バリアフリーではない為段差などを改良していく
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	7			１年の目標を設定して取 り組んでいる。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			保護者の評価表によるご 意見を職員へ周知し改善 を図る。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7			年に一度、ホームページ にて評価の公表を実施し ている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7			ローゼルグループ内で社内実地指導を行い他の事業所、法人のアドバイスを受けている	行政機関や他の研修会などに出席し内容を全職員に伝達している
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7			研修修了者による伝達研 修を実施している。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7			子供や保護者、職員より 情報収集しニーズに基づ いた計画書作成に努めて	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7			サポートノートえいぶる を活用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7			運動プログラムを実施している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			定期的にプログラム内容 を見直し変更している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7			活動内容を状況に応じて 変更して支援を行なって いる。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	7			支援者会議で職員から情 報収集し子供達の特性に 応じた活動内容を考慮し て作成している。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7			ブリーフィングを毎回行い、注意事項や申し送り、活動内容の確認をしている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有している	7			終業前にその日の振り返 りを行い子供の得変事項 や活動内容の反省点など を話し合っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			活動日誌やステップ記録 をとり支援の見直しに活 用している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7			３ヶ月もしくは６ヶ月ごとにモニタリングを行い目標の達成の確認と見直しを行なっている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	7			子供の療育を優先に自立支援を行なっている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7			児童発達支援管理責任者や児童指導員（保育士）が参加している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	7			学校への迎えの際などに学校の先生などと連絡をとっている。各学校のお知らせも受け取ってる	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	7			現在は医療的ケアの必要な児童なし	アレルギーや服薬に関して保護者から情報を共有し連絡体制をとっている
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	7			相談支援事業所と連携して情報を共有している	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7			相談支援事業所と連携して情報を共有している	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7				関係機関との連携のために相談支援事業所などの協力を得ていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7			地域の児童との交流をしている	交流の機会を検討。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	7			にこキッズ連絡会に参加。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			送迎時にその日の活動や様子をお伝えしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント･トレーニング等の支援を行っている	7			保護者より相談がある時 はその都度、対応して助 言や提案をしている。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			契約時に説明を行い、契約内容が変更されるたびに説明している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			送迎やモニタリング等やその都度、話を伺い計画相談員担当者へも相談し助言と支援を実施している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	7			保護者会、スポーツフェスティバル 音楽祭など開催している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7			管理者へ報告し即時、対応するように努めている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7			定期的に園だよりを発行して活動内容など保護者へ周知している。	
	35	個人情報に十分注意している	7			個人情報は鍵付き書庫に保管。全職員に秘密保持誓約書を交わしている	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7			絵カードなども使用して分かりやすく、短く説明を意識している。電話やメール、送迎時などを活用してコミニケーションをとっている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7				近隣や地区のイベントなどの交流を検討している
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7			BCPマニュアルを整備して 定期的に訓練を実施し ている。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			年に２回以上実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			虐待防止研修修了者による伝達研修を定期的に行なっている。	

非常時等の対応	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している				現在、身体拘束の必要な児童はいないが、必要な際のマニュアルや保護者への同意を求めるようにしている	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7			医療からの情報を基に見えるところに注意喚起の貼り出しもしている	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			ヒヤリハット報告書を作成しブリーフィングや振り返り事業所内ミーティングで報告している。	